

成果の説明書

(氏名) 小牧 幸代	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
① 調査研究	
<p>2020年度は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究（C））「パキスタン系ムスリム移民社会における「強制結婚」：ノルウェーの事例研究」（研究代表者：小牧幸代）の研究期間の1年目であり、これまでの調査で収集した「オスロのパキスタン系移民社会」「マンチェスターのパキスタン系移民社会」「パキスタンのリトル・ノルウェー地区」「日本のパキスタン系住民」に関するデータの整理と分析をおこなうとともに、インターネットや文献資料を通じて最新の関連情報を収集した。海外での現地調査は、新型コロナウイルスの世界規模での感染爆発のため実施できなかったが、データの整理と分析を当初の計画よりも早く進めたことで、3本の論文を執筆し公表することができた。それらは「ムスリム女性と現代アート：マンチェスター大学ウィットワース美術館の企画展に関する一考察」「越境する『強制結婚』：ノルウェーのパキスタン系移民女性とNGO活動」「パキスタン系ムスリム移民の生活誌：オスロのリトル・パキスタンを中心に」である（書誌データは学术论文の項を参照）。さらに、内外の研究者による論文だけでなく、政府機関やNGO団体が発行している白書や報告書も参照し、それぞれを付き合わせることで、パキスタン系ムスリム移民社会の現状把握に努めた。</p> <p>次に、研究分担者となっている科学研究費助成事業（科学研究費補助金・基盤研究（A））「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」（研究代表者：上智大学総合グローバル学部教授・赤堀雅幸）は、2020年度が研究期間の2年目であった。コロナ禍のため、国内での研究合宿、海外での共同調査・現地調査ができないなど、多くの制限・制約があった。そのため、メールを使って共同作業をしたり、同科が主催するZoom研究会に参加して最新の研究動向や現地事情に関する情報と知識を共有したりするなど、代替手段を駆使して研究が遅滞しないよう努力した。</p> <p>2015年度に開始された日本文化人類学会課題研究懇談会「嗜好品の文化人類学」（代表：大坪玲子）の研究会には、これまで断続的に参加していたが、2020年度は研究会だけでなく成果発表のための会議も頻繁にZoomで開催され、どちらにもほぼ全て参加した。この流れで、12月から「世界の嗜好品対決シリーズ」の企画が始まり、第1回の「コーラ対決」で「インドのカンパ・コーラ」の歴史と現状について「カンパ・コーラ：愛国の嗜好品」というタイトルで発表し、「ペルーのインカ・コーラ」と対決した。コーラのようにグローバルな工業製品としての嗜好品は、世界経済や技術発展、国際政治などと連動し、国境を越えて非常によく似た展開を見せることが明らかになった。2月28日にZoomで開催されたシンポジウム「境界を楽しむ：中東・イスラーム世界の嗜好品」では、「インドネシアのガンビール」「イランの水たばこ」「トルコの酒」「エジプトのリップ」「イエメンのカート」に関する個性的な発表に対するコメントータとして、南アジアでの知見を踏まえ、独自の観点からコメントをおこなった。</p> <p>2013年度から継続的に調査研究をしてきたインドのテーマパークにおける「宗教・民族・国家・歴史・文化の表象」に関する調査研究については、その成果の一部を3月29日にZoomで開催された「パブリックヒストリー研究会2周年記念・第9回公開研究会・第1部・パネル『拓かれる様々な可能性』」において、「教育」「テレビ・映画」「博物館」「ゲーム」「AI」「ツーリズム」「神話」を専門とするパネラーとともに、「パブリックヒストリーとしてのテーマパーク」というタイトルで、テーマパークのテーマやアトラクションを「公共の歴史」の資料と捉える可能性を探った。</p>	

② 学術論文

◆「ムスリム女性と現代アート：マンチェスター大学ウィットワース美術館の企画展に関する一考察」『地域政策研究』23-2、2020年12月、pp.1-11。

◆「越境する『強制結婚』：ノルウェーのパキスタン系移民女性とNGO活動」田中雅一・嶺崎寛子編『ジェンダー暴力の文化人類学：家族・国家・ディアスポラ社会』昭和堂、2021年2月、pp.397-420。

◆「パキスタン系ムスリム移民の生活誌：オスロのリトル・パキスタンを中心に」赤堀雅幸編『ディアスポラのムスリムたち：異郷に生きて交わること』SIAS Lecture Series 6、上智大学イスラーム研究センター、2021年3月、pp.13-28。

③ 研究発表

◆コメンテータ@「ムスリムの生活世界の多極的な変容」研究会（共催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所人類学班、AA研共同研究課題、科研費・基盤A(19H00554)）2020年10月10日、Zoom開催。

◆発表「カンパ・コーラ：愛国の嗜好品」@「嗜好品研究会・対決シリーズ・第1弾コーラ対決」（主催：日本文化人類学会課題研究懇談会「嗜好品の文化人類学」）2020年12月12日、Zoom開催。

◆コメンテータ@シンポジウム「境界を楽しむ：中東・イスラーム世界の嗜好品」コメンテータ（共催：現代中東地域研究国立民族学博物館拠点、日本文化人類学会課題研究懇談会「嗜好品の文化人類学」、JSPS国際共同研究強化（B）ポスト・アラブの春時代における中東ムスリムのグローバル移動と社会関係の複合的再編）2021年2月28日、Zoom開催。

◆発表「パブリックヒストリーとしてのテーマパーク」@「パブリックヒストリー研究会2周年記念・第9回公開研究会・第1部・パネル『拓かれる様々な可能性』」（共催：パブリックヒストリー研究会、パブリックヒストリー・ワークショップ）2021年3月29日、Zoom開催。

2 その他の事項

2020年7月31日に第1回目があり、その後、ほぼ毎週金曜の夜8時に開催されるようになった「パブリックヒストリー・ワークショップ」には、やむをえない事情で1回欠席したが、残りは全て出席し、他大学・研究機関の研究者や大学院生と一緒に「パブリックヒストリー」「デジタルヒストリー」「オーラルヒストリー」に関する外国語の基礎文献を講読・読解・議論するとともに、海外から論文の著者にも参加してもらい、講演&質疑応答をすることで多くの知識を習得できた。こうした学際的で国際的な教育研究連携は、コロナ禍を逆手にとった非常に有意義な試みであった。

3 次年度以降の計画・抱負

2021年度は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究（C））「パキスタン系ムスリム移民社会における『強制結婚』：ノルウェーの事例研究」の研究期間の2年目、科学研究費助成事業（科学研究費補助金・基盤研究（A））「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」は研究期間の3年目である。いずれも調査研究の主要な部分を海外での現地調査・資料収集が占めるが、その実現可能性はまだ低い。文献資料とネットでの情報収集に依拠しながら資料の整理・分析と執筆活動に専念し、その後の調査活動につなげたい。嗜好品研究は成果発表の一環として論文集の刊行が予定されており、寄稿する計画である。また、「テーマパーク」と「アート」に関する調査研究も引き続き進めていきたい。とくに、アートに関しては「移民アート」と「民俗アート」に焦点を絞って、新たな着眼点と方法論を開拓したい。